

カナダの金融市場動向 Weekly Report

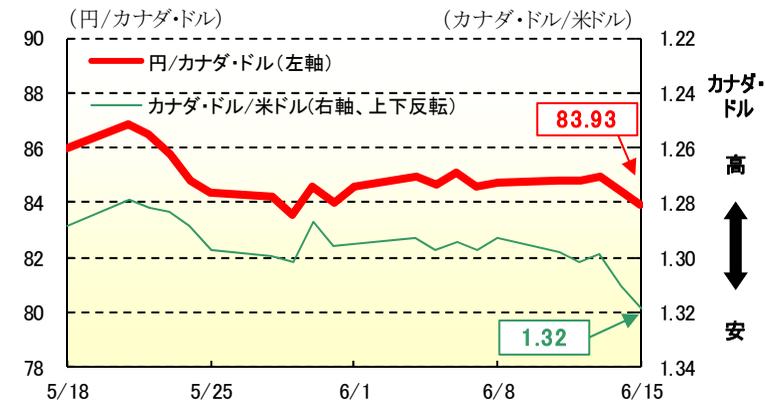
【2018年6月9日～2018年6月15日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りは低下しました。

週前半は、米国やユーロ圏の金融政策イベントを控え為替・金利は小動きとなりました。その後FOMC（米国連邦公開市場委員会）で市場予想通り政策金利が引き上げられたことは、カナダ・ドルやカナダ金利の上昇要因となりました。しかし、米国と中国が互いの国の製品に関税を賦課すると発表したことや、原油価格が下落したことなどを受けて、カナダ・ドルは対円で下落するとともにカナダ金利も低下基調となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年5月18日～2018年6月15日)



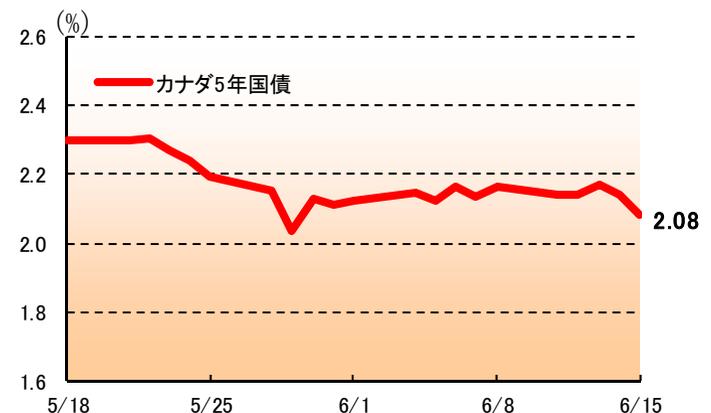
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週は22日にOPEC（石油輸出国機構）の総会が開催される予定です。総会では、現在実施されている協調減産の緩和が議論される予定です。しかし、一部の国が反対するなど協議は難航するものとみられており、交渉がまとまるか注目が集まります。カナダ・ドルはOPEC総会の結果とそれを受けた原油価格の動きに左右されそうです。

経済指標については、カナダでは4月の小売売上高のほか、5月のCPI（消費者物価指数）が発表される予定です。

【カナダ 金利推移】 (2018年5月18日～2018年6月15日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>